

博 多 誕 生 — 鴻 臚 館 から 唐 坊 へ —

神戸女子大学 山内 晋次

はじめに

- ◆文献史学からみた中世貿易都市・博多の成立
- ◆長い歴史スパンで（9世紀～13世紀）
- ◆アジア史的・世界史的背景より
- ◆「中世博多歴史放談」（5/13 福岡市博物館）の続編？

1 東アジア海域における9世紀の画期

(1) 東アジア海域（日本列島・朝鮮半島・中国大陸に囲まれた海）交流における外交から貿易への転換

< 7・8世紀 >

- ◆王権間の交流
- ◆国家的使節団の派遣

< 9世紀 ~ >

- ◆王権間交流の縮小
- ◆使節団派遣の急速な減少・停止
- ◆民間海商（新羅海商・唐海商）の頻繁な来航・貿易
⇔ 鑑真の日本渡航の失敗

(2) 民間海商の日本来航の背景

◆新羅海商（=在唐新羅人）

8世紀末～新羅での反乱の続発 + 9世紀前半の一時的寒冷化？

→ 唐への移住（山東・江蘇・浙江などへの定着） → 一部が海上貿易へ進出

◆唐海商

『高野雑筆集』（空海の書簡）付載「唐人書簡」

◆9世紀博多に来航した唐海商・唐僧 ⇔ 円珍・唐僧義空

◆唐海商の肩書「衙前散将」 → 唐国内の藩鎮・州権力につらなる商人

◆唐海商・徐公祐 「ここ2・3年、蘇州の田地の稲が実らず困窮」

→ 農業への投資を含めた多角的な経営基盤 ⇔ 中国江南の経済発展が背景に

◆中国史の転換と海商の日本来航

< 安史の乱 > (755～763)

→ ・唐国内での地域権力の伸長（地方分権化の進行）

・華北の荒廃、半独立的藩鎮の割拠

* 8世紀後半～9世紀前半の一時的な気候の寒冷化？

→ 江南の経済発展 + 8世紀～ムスリム海商による刺激？

・王朝の主要財源地の移動

・開発の本格化

・人口密集

・穀倉地帯

・貨幣経済の先進地域

⇒ 江南地域の商人の資本蓄積 → 対日貿易への進出

* 9世紀日本史料の世界史的重要性

2 9世紀における博多湾の貿易拠点化

(1) 貿易拠点化の基盤

- ◆朝鮮半島・中国大陸との地理的位置関係
- ◆港湾として有利な地形条件
- ◆瀬戸内海航路による政治的中心との連結 など
 - 9世紀以前にすでに重要な国際交流拠点
 - ・鉄資源・稲作などの流入
 - ・磐井の乱、那津官宅
 - ・遣隋使、遣唐使、百済救援作戦、大宰府
 - ・筑紫館 などなど
 - ⇒ 9世紀以降の貿易拠点化可能に

(2) 貿易拠点としての鴻臚館

- ◆平和台球場跡地一帯
 - ・岬状の台地の先端部
 - ・隔離機能
 - ・南北2つの建物群
- ◆7世紀後半
 - ・「筑紫館」として設置
 - ・外交面での利用(来日・遣外使節)
- ◆9世紀
 - ・「鴻臚館」への改称
 - ・外交の縮小、海商の来航・貿易
 - ・海商の滞在・貿易の管理拠点に転用

3 鴻臚館から唐坊へ

(1) 鴻臚館の廃絶

- ◆鴻臚館遺跡
 - I期(7世紀後半) → II期(8世紀前半) → III期(8世紀後半～9世紀前半)
→ IV期(9世紀後半～10世紀前半) → V期(10世紀後半～11世紀前半)
- ◆11世紀半ば以降の遺構・遺物ほぼなし
 - + 1147年の「大宋国商客宿坊」の放火記録(『扶桑略記』・『百鍊抄』)
 - このときの火災により再建されることなく廃絶?
- ⇒ しかし、11世紀後半以降も宋海商の来航・貿易頻繁に記録
- ⇒ 貿易拠点はどこに?

(2) 唐坊の成立

- ◆博多遺跡群の考古学調査
 - ・JR博多駅の北西側一帯
 - ・1977年～発掘継続
 - ・11世紀後半～遺物・遺構の激増
 - ⇔ 鴻臚館遺跡の遺物・遺構状況
 - ・膨大な量の貿易陶磁
 - ・貿易陶磁器の高い比率
 - ・コンテナとしての大型容器

- ・商品とはならない未加工の陶磁
- ・貿易陶磁の大量一括廃棄遺構
- ・多量の墨書貿易陶磁 などなど

⇒ <11世紀半ば> 博多遺跡群の区域が新たな貿易拠点に

◆文献史料にみえるトウボウ (11世紀末～唐坊・唐房・唐防)

滋賀県西教寺蔵 仏典奥書 (1116) 「筑前国薄多津唐房大山船龔三郎船頭房」

このほかに以下のような史料も

- ・『香要抄』(11世紀末～12世紀中葉)の「宿坊」(1062年)
- ・『教訓抄』(1233)の「ハナカタノ唐防」(1090年代)
- ・『中右記』の「唐坊」(1132年)
- ・『榮西入唐縁起』の「博多唐房」(1168年)
- ・『石清水文書』所収「中原師尚勘状」の「店(唐)坊」(1186年)

⇒ 博多津にあった「唐坊(房・防)」とはなにか?

「唐」=中国人 + 「坊」=まち・へや・いえ (房=へや・いえ、防=坊=房)

★トウボウ = 中国人が居留するまち(いえ・へや) = 貿易拠点 ← 考古学的成果とも対応

4 唐坊の具体像をめぐる臆測

(1) 唐坊以前の博多津

<8世紀> 官衙・官人居宅の存在?

- ・大型掘立柱建物跡
- ・銚帯(帯金具)・石帯
- ・墨書須恵器 <長官・佐>

<9世紀後半～> 下級官人中心の官衙・居宅の存在?

- ・鴻臚館と同様の貿易陶磁 (越州窯系青磁、邢窯系・華南産白磁、イスラム陶器など)
- ・鴻臚館に次ぐ量の出土

<11世紀初頭> 館(公館)の存在

『大弐高遠集』(藤原高遠、1005～1009年 大宰大弐)

今はとて、博多に下る日、館の菊のおもしろかりしを見て
とりわきて我が身に露や置きつらん花よりさきにまづぞうつろふ

⇒ もともと博多遺跡群の区域には律令国家による官衙・官人などの配置あり *鴻臚中島館も?

⇒ 「唐坊」も鴻臚館にかわる貿易管理拠点として大宰府などの公権力主導で設置

*9世紀の博多・大宰府周辺の新羅人居留地との関わりは?

「(新羅人)潤清等久事交関、僑居此地」「従来居住管内者、亦復有数」(『日本三代実録』)

(2) 龔三郎の居留形態

◆1116年の「龔三郎船頭房」の「房」とは?

龔三郎船頭の「房」で経典を書写したという意味の奥書だとしたら

→ 「房」 = 「へや」「いえ」などの意味? → その「へや」「いえ」の形態は?

◆鴻臚館跡北地区の長屋構造の第Ⅲ期礎石建物への注目

- ・鴻臚館遺跡北地区 = 「鴻臚北館」 = 宿房
 - ・第Ⅲ期礎石建物 SB1228 = 長大な建物、区切られた部屋構造 (亀井明德『博多唐房の研究』 亜州古陶磁学会、2015)
- 海商の宿房 = 内部が区切られた長屋建物 ⇒ 類似する対外的施設の存在

◆近世の長崎唐人屋敷(唐館)への注目

<～1688>

- ・来航中国人は船ごとに宿町とよばれる長崎の町内に滞在
- ・日本人と中国人の雑居が原則

<1689～>

- ・唐人屋敷（唐館）の設置
- ・来航中国人を強制的に収容
- ・密貿易防止のため唐人・日本人の接触を制限

⇒ 唐人屋敷の構造

- ・来航唐人に船単位で住居割り当て＝「本部屋」（2階建て、2階は船主・上級船員、1階は下級船員）
- ・本部屋2～4が連続して「長屋」1棟を形成

◆鴻臚館宿房と唐人屋敷本部屋との構造の類似 ＝ 長屋建物の内部を部屋に分割

- ⇒ 龔三郎船頭の「房」 ＝ ・綱首龔三郎の船の乗組員たちをまとめて収容
・「本部屋」的建物という可能性は？

＊長崎唐人屋敷の場合

後期（1785～1868）には公儀普請（建渡し）と自分立（自分普請）に

⇒ さまざまな時代・地域における外来商人の収容施設の比較も課題に

（3）通事とは？

◆栄西『興禅護国論』（1198）

予日本仁安三（1168）年戊子春、有渡海之志、到鎮西博多津。
二月遇兩朝通事李德昭、聞傳言、有禪宗弘宋朝云々。

◆青蓮院尊応他『日吉山王利生記』（15c）

建久の比、東大寺大勧進の聖俊乗坊、一切経奉請の志有ければ、鎮西博多津
の前通事李宇（「船頭李宇」とも表記）を相語て、遂に同五（1194）年十一月七日ぞ
迎奉りけり。

⇒ ・12世紀の博多津に「通事」という肩書きをもつ海商

・「前通事」 → 綱首たちが交替で就任する役職？

⇒ 「通事」 ＝ 博多の中国人社会の代表者・顔役？

（4）博多唐房の先例・仲間

◆唐・宋代の広州の「蕃坊」

- ・7世紀～西アジアのムスリム海商たちの中国来航
- ・貿易港広州で居留区形成 ← 唐王朝の主導
- ・有力海商を代表者とする半自治

◆唐・五代の「新羅坊」

- ・都市の一角にある新羅人の集住区域
- ・楚州・泗州漣水県・黄巖 など
- ・「惣官」「訳語」などの役職をおき半自治？

◆宋代の海上貿易の大発展

- ・東南アジア・高麗などに中国人居留地
- ・博多の唐坊はアジア史の大きな流れの一環

おわりに

◆鴻臚館と唐坊のあいだでの継続と変化の様相の解明（亀井明徳 2015）

（大庭康時「博多津唐房以前」『博多研究会誌』13、2015）

◆中世貿易都市・博多が日本列島全体の歴史に与えたインパクトの解明

◆博多に関する文献・考古データのアジア史的・世界史的な活用